

西けりよライオンスクラブ

漢沢第一日一言

令和七年四月九日(水)

p.76 5月1日 忠信篤敬 ①

訓読 忠信 篤敬

衛霊公第十五 (p.229, p.230)

三四

子張問行。子曰、言忠信、行篤敬。雖蠻貊之邦、行矣。言不忠信、行不篤敬、雖州里、行乎哉。立則見其參於前也、在輿則見其倚於衡也。夫然後行。子張書諸紳。

五

5月2日 忠信篤敬 ②

訓読 忠信 篤敬

造次顛沛

里仁第四 (p.38, p.39)

七

子曰、富、與、貴、是、人、之、所、欲、也。不、以、其、道、得、之、不、處、也。貧、與、賤、是、人、之、所、惡、也。不、以、其、道、得、之、不、去、也。君、子、去、仁、惡、乎、成。名。君、子、無、終、食、之、間、違、仁。造、次、必、於、是、顛、沛、必、於、是。

五

p.78 5月6日 言孝を懐む ②

司馬溫公曰、自不妄語始。

(小學外篇善行)

門人劉安世が「誠に入るの道は」と尋ねた時に、司馬光が答えたことは、「誠に入るの道はまず、うそをいわないことから始まるべきだ」と答へた。

p.84 5月17日 世に立つ要諦

中庸 第一章 ↓ 別紙参照

p.89 5月27日 閑遠の道

至誠と勉強 1件 致知 4月号

閑にある 閑の研究

p.103 6月19日 人々に知する為め

教育新語 (忠孝、至誠、博愛)

第一章

万物を等しく生成してやまない宇宙根源のはたらきを造化といひ、また天ともいう。人にもまたそれそれに、生まれるから何人も代わることのできない尊い個有のはたらきが、天から与えられている。これを性という。努力によつてその性を発現するのが、人と成るというのである。その為には、それに相應する天のおきてがある。これを道という。その道を歩むには先覺の残した道標に由ることが確かである。これを教というのである。従つて道は、人の日常生活に於ては、らくも離れてはならない。離れてもよいようなものは本當の道ではない。君子（成徳の人）は誰も見てない所でも常に自分を戒め慎む。また誰も聞いてない所でもおそれおそれて自分を慎む。内に隠れて誰にも見えないと思ふことが、何かの拍子に現れると却つて著しく目立つ。またほんの僅かで誰にも分るまいと思ふことが、何かの拍子で現れると却つて目立つものである。だから君子は常に自分独りを慎むわけである。

喜怒哀楽の感情が内に在つてよく調和して外にまだ現れない状態を「中」という。それが時とところに応じて正常に現れるのを「和」という。中はすべての人の心の根本であり、和はすべての人の等しく歩むべき大道である。その中和をきわめることによつて、天地もその特質をよく保つて、万物を生々化育してやまないのである。

第一章

天の命する之を性と謂い、性に率う之を道と謂い、道を修むる之を教と謂うなり。

道なる者は、須臾も離る可からざるなり。離る可きは道に非ざるなり。是の故に君子は其の睹ざる所に戒慎し、

其の聞かざる所に恐懼す。隠れたるより見わるるは莫く、微しきより顯らかなるは莫し。故に君子は其の獨りを慎むなり。

喜怒哀楽の未だ發せざる、之を中と謂い、發して皆節に中る、之を和と謂う。中は天下の大本なり。和は天下の

達道なり。中和を致して天地位し、萬物育す。